

第四回 貴族院議事速記録第二十三號

明治二十六年一月二十三日(月曜日)

午前十一時五分開議

議事日程 第二十三號 明治二十六年一月二十三日

午前十時開議

- 第一 辯護士法案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
- 第二 度量衡法追加案(衆議院提出) 第一讀會ノ續(長報告)

○議長(侯爵須賀茂韶君)

一昨二十一日可決ニナリマシタ官有原野貸下及拂下ノ請願、管地組替ノ請願、郡所屬組替ノ請願、山林制度改正ノ請願ハ意見書ヲ附シマシテ即日政府ニ送付致シマシテゴザイマス、本日ノ議事日程第一辯護士法案第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔左ノ修正案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ此ニ載録ス議案中直線ヲ施セルモノ左傍ハ朱抹シタル文字右傍ハ増加シタル文字〕〔内ノ字ハ右傍ニ朱書シタルモノナリ〕

辯護士法

第一章 辯護士ノ資格及職務

第一條 辯護士ハ當事者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ法律ニ定メタル職務ヲ行フモノトス但特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其職務ヲ行フコトヲ妨ケス

第二條 辯護士タラント欲スル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ニシテ民法上ノ能力ヲ有スル成年以上ノ男子タルコト

第二 辯護士試験規則ニ依リ二回ノ試験ニ及第シタルコト

第三條 辯護士試験ハ第一回ニ於テ學識ヲ試験シ第二回ニ於テ實務ヲ試験ス

試驗及實務修習ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第四條 「左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得」

「第一」判事檢察事タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其請求ニ因リ登録ヲ取消シタル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

「第二」法律學ヲ修メタル法學博士帝國大學法律科卒業生、舊東京大學法學部卒業生、司法部舊法學校正則部卒業生及司法官試補タリシ者ニシテ辯護士ト爲ルニハ第一回ノ試験ヲ要セス

第五條 左ニ掲クル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第一 重罪ノ刑ニ處セラレタル者但國事犯ニシテ復權シタルトキハ此限ニ在ラス

第二 偽證罪、偽造罪、誣告罪、收賄罪、盜罪、詐僞罪、受寄物消費罪又ハ贓物ニ關スル罪ヲ犯シ定役ニ服スヘ「可」キ輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

第三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ス但帝國議會議員、府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此限ニ在ラス

辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但辯護士會ノ許可ヲ得タルモノハ此限ニ在ラス

第二章 辯護士名簿

第七條 辯護士ハ辯護士名簿ニ登錄セラル、コトヲ要ス

第八條 各地方裁判所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其氏名ヲ登錄シタル地方裁判所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁判所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ其所屬地方裁判所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差出ス可シ

登錄請求書ニハ第二條乃至第六條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添フ可シ

第十條 登錄ヲ請フ者ハ登錄手数料トシテ金貳拾圓ヲ納ム可シ

他ノ地方裁判所ニ登錄換ヲ爲ストキハ手数料トシテ金拾圓ヲ納ム可シ

第十一條 登錄ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第三章 辯護士ノ權利及義務

第十二條 辯護士ハ登錄後三年ヲ經過スルニ非サレハ大審院ニ於テ其職務ヲ行フコトヲ得ス但三年以上判事檢察事タリシ者ハ此限ニ在ラス

第十三條 辯護士ハ正當ノ理由ヲ證明スルニ非サレハ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條 辯護士ハ左ニ掲クル訴訟事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二 判事檢察事奉職中取扱ヒタル事件

第三 仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

第十五條 辯護士ハ係爭權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第十六條 辯護士ハ訴訟事件ノ委任ヲ承諾セサルトキハ速ニ其旨ヲ委任者ニ通告ス可シ若シ通告ヲ怠リタルトキハ之カ爲メ生シタル損害ノ責ニ任ス

第十七條 辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其管内區裁判所所在ノ地ニ事務所ヲ定メ之ヲ所屬地方裁判所檢察局ニ届出ツ可シ

第十八條 辯護士ハ第一回試験及第者及第四條第一項ノ資格ヲ有スル者ヲシテ實務修習ノ爲メ法廷ニ於テ其職務ヲ補助セシムルコトヲ得「辯護士ハ其職務上ヨリ生スル賠償及過料ニ充ツル爲メ辯護士會會則ニ定ムル所ニ從ヒ百圓以上ノ保證金ヲ其辯護士會ニ預ク可シ」

第四章 辯護士會

第十九條 辯護士ハ其所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設立ス可シ

第二十條 辯護士會ハ所屬地方裁判所檢察正ノ監督ヲ受ク

第二十一條 辯護士會ニ會長ヲ置ク又副會長ヲ置クコトヲ得

第二十二條 辯護士會ハ毎年度定期總會ヲ開ク又臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十三條 辯護士會ハ便宜ニ依リ常議員ヲ置クコトヲ得

第二十四條 辯護士會ハ地方ノ狀況ニ從ヒ其會員ヲシテ三百圓迄ノ積金ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十四條「五」條 辯護士會ハ其會則ヲ定メ檢察正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受ク可シ

辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘ「可」シ

第二十六條「五」條 辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

第二十七條「六」條 辯護士ハ其所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ケ職務ヲ行ハントスルトキハ其職務ヲ行フヘ「可」キ地方裁判所所在ノ辯護士會會則ヲ遵守スヘ「可」シ

第二十八條「七」條 辯護士會會則ニハ會長副會長常議員ノ選舉及其職務、總會、常議員會及其議事ニ關スル規程、辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程並ニ謝金ニ關スル規程其他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設ク可シ

第二十九條「八」條 會長、副會長及常議員選舉ノ結果、總會及常議員會開會ノ日時場所及議題ハ辯護士會ヨリ之ヲ檢察正ニ届出ツ可シ

第三十條「九」條 辯護士會ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

- 一 法律命令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項
- 二 司法大臣又ハ裁判所ヨリ諮問シタル事項
- 三 司法上若クハ辯護士ノ利害ニ關シ司法大臣又ハ裁判所ニ建議スル事項

第三十一條 檢察正ハ辯護士會ノ會場ニ臨席スルコトヲ得又會議ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十二條「一」條 辯護士會ノ會議ニシテ法律命令及辯護士會會則ニ違フモノアルトキハ司法大臣ハ其議決ヲ無効トシ又ハ其議事ヲ停止スルコトヲ得

第五章 懲戒

第三十三條「二」條 辯護士ニシテ此法律又ハ辯護士會會則ニ違背シタル「若ハ信用ヲ失フ可キ」所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會ノ決議ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲メ檢察正ニ申告ス可シ

檢察正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒訴追ヲ檢察正ニ請求ス可シ

第三十四條「三」條 辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ懲戒裁判所ヲ開ク可シ

第三十五條「四」條 懲戒罰ハ左ノ四種トス

第一 譴責

第二 百圓以下ノ過料

第三 一年以下ノ停職

第四 除名

第三十六條「五」條 懲戒處分ニ付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス

附則

第三十七條「六」條 現在ノ代官人ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ辯護士名簿ニ登錄ヲ請フトキハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第三十八條「七」條 現在ノ代官人ハ本法施行前ニ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ其判決ニ至ルマテ職務ヲ行フコトヲ得

第三十九條「八」條 第十二條ノ規定ハ現在ノ代官人ニ之ヲ適用セス

第四十條「九」條 本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行ス

明治十三年司法省甲第一號布達代官人規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

（眞作麟祥君演壇ニ登ル）

○眞作麟祥君 諸君、辯護士法案特別委員會ノ經過及結果ヲ御報道ニ及ビマス、御承知ノ通り辯護士法案ハ政府ヨリ提出ニナリマシテ衆議院ニ於テ大分修正ヲ加ヘマシテゴザイマス、然ル處委員會ニ於キマシテハ大體ハ衆議院ノ修正ニ同意ヲ致シマシテ唯三四箇所程更ニ修正ヲ加ヘマシタ所ガアリマス、第二條ノ第二項申ス所ニ「一回ノ」ト云フ字ガアリマシタノヲ「一回ノ」ノ三字ヲ削リマシテ從ヒマシテ第三條ニ至リマシテモ大分文字ヲ削リマシタ、詰マリ原案ニハ辯護士ノ試験ヲ致スニハ第一回ノ試験ハ即チ學識ヲ試験致シ

第二回ニ於キマシテハ實務ヲ試験スルト斯ク二回ノ試験ヲ要スルコトニナツテ居リマシタ、其理由ヲ承ツテ見マスルニ辯護士ト云フモノハ餘程地位ヲ高ク致シテ成ルベキ丈ケハ判事檢事ト同一ノ程度ニ上ラシメルト云フコトデア、即チ裁判所構成法ノ第五十八條ニ判事檢事トナラムトスル者ハ第一回試験ニ及第シタル者ハ第二回試験ヲ受クルノ前試補トシテ裁判所及檢事局ニ於テ三年間實地修習ヲ爲スコトヲ要スト云フコトガアリマス、又同裁判所構成法第六十五條ニ三年以上辯護士タル者ハ試験ヲ要セスシテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得トアリマス、約マリ辯護士ヲ三年以上致シタル者ハ試験ヲ要セズシテ判事檢事ニナレルカラシテ判事檢事ト辯護士トハ同一ノ程度ニシナケレバナラス、判事檢事ハ二回ノ試験ガアルモノデア、ルカラ從テ辯護士モ是レト同様ニ第一回第二回二回ノ試験ヲ受ケナケレバナラス、斯ウシナケレバ判事檢事ト辯護士ト此二ツノ者ノ間ニ權衡ガ宜シキヲ得ルト云フ譯ニ參ラス、依ッテ此第二回ニ於テ實務ヲ試験スルト云フコトハ矢張り辯護士ニ於テモ必要デア、ル、學校ヲ卒業致シタバカリ直グ實務ヲ不都合ナク取行フト云フニハ中々容易ノコトデア、ルマセ、譬ヘバ行政官ノ如キモノモ試補トカ見習トカ云フ制ガ設ケテアルノハ矢張り其次第デア、ル辯護士トナリマスルニ必要ナ第二回ノ試験ヲ受クル前ニ實務修習ト申スモノモドウ云フコトヲスルカト言ヘバ先輩ノ代官人ニ就キマシテ其補助即チ手傳トナリマシテ訴狀ヲ認メルトカ又ハ法廷ヘ出マシテ其助ヲスルトカ云フ様ニ致セバ強テ實務修習ト云フコトハムヅカシイコトデモアルマイ、又實務修習モサウ長ク致シマセヌデモ凡ソ一箇年位ナレバ十分デア、ル、夫レカラ又第二回ノ實務試験ノ方法ノ如キニ至リマシテモ矢張り判事檢事ト試験方法ト略、同一ノ程度ニ致スト云フ積リデ第二回ノ實務試験ヲ要スルト云フコトデア、ル様ニ承リマシタ、然ル處ガ委員會ニ於キマシテハ第二回ノ試験ハ入ラスト云フコトデア、ルヲ廢シマシタ、其廢シマシタ理由ハ元來辯護士ト云フモノヲ判事檢事ト同等ノモノニスルト云フ原案ノ精神デア、リマスガ夫レガ抑、間違ヒデ、是レハ決シテ判事檢事ト辯護士ト云フモノハ同様ノ性質ノモノデア、ルハナイ、第一判事ト云フモノハ一種勢力ノアル所ノ判決ヲ下スモノデア、リマス、第二ニハ判事檢事ニ至リマスレバ訴訟人ガ隨意ニ其人ヲ選ビマシテアノ判事ニ裁判サレルノハイヤダ此判事ニ裁判シテ貰ヒタイト云フコトヲ隨意ニ極メル譯ニハ參リマセヌ、第三ニハ判事檢事ハ一定ノ俸給ヲ受ケテ居ル者デア、リマス、斯ノ如ク抑、性質ノ違ッタモノデア、リマス、カ此判事檢事ト辯護士ト二ノ者ヲ強テ同一ノ規定ニ從ハシメルト云フコトノ必要ガナイノミナラズ從ハシメルトハ理由ガナイコトト考ヘル、元來辯護士ノ職ト申スモノハ一箇ノ營業的ノモノデア、リマス、カ實際ノ事ニ經驗ノアリマセヌ者ハ人民ヘ對シテ信用モアリマセ

ス、信用ノナイ者ガ互ニ競争スル所ノ競争場裏ニ立ツコトハ出來マセヌノデア、ル、然ルニ原案ノ如クタッタ一回ノ實務試験ヲスレバモウ夫レデ忽チ實務ニ成熟シタル者デア、ルカナイカト云フコトヲ定メルノハ甚ダ覺束ナイ、此事ニ付キマシテハ唯試験デ極メルヨリハ寧ロ訴訟人ノ選ビニ任ス方ガ却ッテ今日ノ實情ニ適當シ便益モ大デア、ラウ、假ニ一步ヲ譲リマシテ第二回ノ實務試験ヲ必要トスルトシマシタ所ガ今日迄諸君ノ御承知ノ通り第二回ノ試験ト云フモノハ代官人試験ニハナカッタノデア、リマス、之ヲ遽ニ設ケルノハ其變遷急激ニ失スル憂ガアリマス、却ッテ之ガタメニ意想外ノ不便不利ナル所ノ結果ヲ生ズルヤモ測ラレヌ譯デア、リマス、又原案ノ理由ヲ聞イテ見マスルト實務修習ヲスルニハ法律デ極メテ置イテモ先輩代官人ノ所ヘ參ッテ其手傳ヲ致セバ宜シイト斯ウ云フ說デゴザイマス、ケレドモ、ドウモ法律ヲ以チマシテ必ズ實務修習ヲシナケレバナラスゾト定メマスルトモドウモ先輩ノ有名ナル辯護士ト申シタ所ガ其人員ニモ限リアルコトヲ幾多ノ法學者ヲ引受ケマシテ即チ補助等ヲサセテ之ヲ養成スルト云フコトハ中々容易ナコトデア、ルハナイ實際行ハレ難イコトト思ヒマス、夫レデア、リマス、カ今日ハ我が社會ノ狀況ガ法律學ヲ修メタモノヲ成ル丈ケ獎勵シテ今日ト異ッタ向キニ急激ノ變遷ハ行ハナイ様ニ致シマシテ徐々ニ改革ヲ爲スコトガ必要デア、ラウト思ヒマス、デ政府ノ原案ノ趣意ヲ承ッテ見マスルノニ第一回ハ學識ノ試験ヲ受ケマスル資格デゴザイマス、其資格ヲ成ル丈ケ是レハ寛カニシテ置クト云フ斯ウ云フ精神ト見エマス、其精神カラ申セバドコモデモ之ヲ貫徹セシメナケレバナラス答デア、ルノニ俄ニ又第二回ノ實務試験ヲスルト云フコトハ甚ダ精神ガ……第一回ノ試験ヲスルニ付テハ寛大ニシヤウトシナガラ第二回ノ試験ヲ設ケルト云フコトハ甚ダ前後撞著スル様ナ嫌ヒガアリマス、夫レデア、リマス、ル故ニ今日俄ニ實務試験ト云フコトヲ法律ガ干涉シマシテ是非夫レヲシナケレバナラスト云フコトハ甚ダ其當ヲ得タモノトハ思ハレマセヌ、夫レヨリハ寧ロ人民即チ依頼人ノ選擇ニ任セマシテ優勝劣敗ノ天然ノ法則ニ任セルガ宜イト考ヘマス、又前ニ述べマシタ裁判所構成法ノ第六十五條ニ「三年以上帝國大學法科教授若ハ辯護士タル者ハ此ノ章ニ掲ケタル試験ヲ經シテ判事又ハ檢事ニ任セラル、コトヲ得」ト云フ成程規定ハアリマス、ケレドモ是レハ必シモ三年以上辯護士ニナツタモノガ判事檢事ニ任セラルベシト云フ意味デハ決シテナイ、唯判事檢事ト爲リ得ル資格ガ出來ルト極メタ丈ケノコトデゴザイマス、カドウシテモ其性質ノ違ッタモノヲ同一ノ試験ヲ受ケサセナケレバナラスト云フ道理ハ出テ來ナイ、又今日此各法律學校デ法律學ヲ修メテ參ッテ一回ノ試験ヲ經テ代官人ノ業ニ就イテ居ルモノデア、リマス、ガ夫レカト申シテ一回ノ試験デモ一向訴訟事務取扱ノ上ニ於テ差間ガ生ズルトカ或ハ信用ヲ失ッタト云

フモノハナイ、夫レハ成程品行ガ惡ルイト云フコトハアルカモ知レマセヌ
ガ實務取扱上一回ノ試験丈ケデ少シモ不都合ハナイ、一回ノ試験デ不都合ガ
ナイト云フコトニ致シマスレバ何モ強テ今日ノ制度ヲ改メル必要ハアリマセ
ヌ、又加之目下ノ有様ヲ見マスルニ東京府下ノ如キニ致シマスレバ大學出
身ノ代言人若クハ司法省デ代言人試験ヲ受ケテ及第シタルモノト云フモノハ
甚ダ多イガ地方ノ狀況ヲ顧ミテ見マスルト大イニ之ト異ッテ居リマシテ大學
出身ノ代言人ハ無論ノ話デアリマスガ司法省デ代言人試験ニ及第シテ代言人
トナツタモノモ甚ダ少イ、大抵ハ舊來各地方デ試験ヲシマシテ其試験ニ及第シ
タルモノガ矢張り其地方ニハ多イ、詰マリ申セバ東京府下ノ如キハ大層立派
ナ代言人ガ多イガ各地方デハサウ立派ナモノハ少イ、デアリマスカラ各地方
マデ段々法律社會ノ新空氣ヲ呼吸セシメル様ニシナケレバナラヌ有様デアリ
マス、其新空氣ヲ呼吸シタルモノガ各地方ニ出向ク様ニシナケレバ日本全國ノ
利益ニナルマイト考ヘマス、夫レデサウ云フ様ニ成ル丈ケ地方ニ出向ク様ニ
スルニハサウ云フ人達ヲシテ妨グナクシテ辯護士ノ職務ニ就ケル様ニ途ヲ開
カナケレバナリマセヌ、其途ヲ開カウト云フニハ今日ニ至ル迄ノ實驗上不都
合ノナイ方法ヲ採ラナケレバナラヌコト考ヘマス、然ルニ此原案ノ様ニ第
二回ノ實務試験ト云フコトヲ設ケルト折角開カムトスル途ニ關門ヲ設ケテ一
ノ邪魔ヲ致ス様ナ姿ニナリマス、又實務修習ト申ス様ナコトモ實際此東京府
下ノ如キニ於テハ立派ナ有名ナル先輩者ガアリマスカラ夫レニ就テ實際出來
マスルケレドモ法律デ是非實務修習ヲシナケレバナラヌゾト極メルノハ是レ
ハドウモ穩カナラヌコトデ、今日ノ代言人トナリマスル人ニ付テハ二様ニ區
別シテ論ジナケレバナラヌコト考ヘル、即チ私立ノ法律學校デ法律學ヲ修
メマシタモノ及司法省ノ代言人試験ニ及第シタモノノ如キハ東京デハ迎モ今
直ニ獨立ニ門戸ヲ張ッテ代言人ノ業ニ從事スルコトハ頗ル困難ナ有様デアリ
マスカラ是レ等ノモノノ如キハ多クハ先輩ノ代言人ノ事務所ニ至ッテ實務ノ
修習即チ見習ヲ致シマシテ己レノ名ガ世ニ出ルノヲ待ッテ始メテ獨立ヲスル
ト云フ有様デアリマス、所ガ地方ハ大イニ之ト狀況ガ變ハリマシテ地方ニ參
ルト私立學校ノ卒業生トカ司法省ノ代言試験ニ及第シタト申ス様ナモノデモ
直ニ獨立シテ營業ノ出來ル有様ニナッテ居ル、然ルニ強テ其法律ヲ設ケマシ
テ實務ヲ修習シタモノデナケレバ辯護士トナルコトハナラヌト斯ウ極メマシ
タ時ニハ大學出身ノ立派ナ法學士トカ或ハ司法省ノ代言人試験ニ及第シタモ
ノガ地方ニ赴キマシテ實務ノ修習ガ出來ナイ様デハ大變地方デ不都合ニナリ
又自分ガ就イテ學ブニモ先輩者ガナイカラシテ甚ダ不便ヲ感ズルコトニナ
ル、夫レデアリマスカラシテ之ヲ要スルニ東京デハ實際實務ガ……實務ノ修
習ヲシナケレバナラヌ、法律デシロト云ハンデモ東京ノ如キハ實務ノ修習ヲ

ヤッテ居ル、然ルニ若シ是非法律デ實務ノ修習ヲシナケレバナラヌト極メ
ト云フト今日地方ニ於テハ獨立シテ辯護士ノ業ニ就クコトモ出來マスマイ、
法律ノタメニ其業務ニ就クコトガ出來ヌ様ニナルト其本人ノタメニハ無論又
依頼人人民ノタメニモ餘程不便ナルコト考ヘマス、夫レデ之ヲ要スルニ我
ガ日本ノ社會ハドウモ遺憾ナガラ未ダ西洋ノ様ニ進歩シテ居リマセヌカラ追
進歩ニナリマシタナラバ或ハ法律ヲ以テ第二回ノ實務試験ト云フコトヲ致
スコトモ或ハ必要ニナルカモ知レヌ、ドウカサウナリタイト思ヒマスガ今日
激變ヲ以テ俄ニ第二回ノ實務試験ヲスルト云フコトハドウモ不當デアラウト
考ヘマス、マダ理由ハアリマスガ先ヅ大畧今述ベマシタ様ナ理由ヲ以チマシ
テ委員會デハ第二回ノ實務試験ト云フモノヲ廢シマシタ、是レガ即チ第二條
第三條ヲ修正シタ次第デゴザイマス、夫レカラ第四條ニ修正ヲ加ヘマシタノ
モ矢張り是レモ第二條第三條ノ第二回ノ實務試験ト云フモノヲ止メマシタノ
果ト殆ド申シテモ宜シイ位デアリマス、ト申スノハ原案ニハ此「法律學ヲ修
メタル法學博士帝國大學法律科卒業生、舊東京大學法學部卒業生、司法省舊法
學校正則部卒業生及司法官試験補タリシ者ニシテ辯護士トナルニハ第一回ノ試
驗ヲ要セス」トアリマシタノデスガ第二回ノ試験ヲ止メテ仕舞ッタ以上ハ詰
マリ一遍デ一回ノ試験デナラレマス、斯ウ云フモノガ辯護士トナルニハ第一
回ノ試験ヲ要スルト云フコトハ入ラヌコトニナリマスカラ削リマシタ、又原
案ノ第二條ニハ「判事檢察タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其請求ニ因
リ登錄ヲ取消シタル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得」ト云フコト
ガアリマス、是レハ何モ意味ヲ變ヘタト云フデハアリマセヌガ是レハ前ニ述
ベマシタ第一項ノ種類ノ人達ト第二項ノ種類ノ人達ト共ニ是レハ試験ヲ要セ
ズ辯護士トナレル譯デアリマス、ソコデ第一項ヲ第二項ニ致シマシテ「左ニ掲
クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得」トシマシテ其次ニ第一項第
二項トシテ少シク體裁ヲ改メマシタ、夫レカラ此判事檢察タル資格ヲ有スル
者云々ノ方ヲ第一ニ致シマシテ夫レカラ法律學ヲ修メタル法學博士云々ヲ第
二ニ致シマシタ、是レハドウモ宜シイノデスガ一體其物ノ性質カラ申シ
タ所ガ判事檢察タル資格ヲ有スルモノ云々ノ方ヲ第一ニ舉ゲ夫レカラ法律學
ヲ修メタル法學博士云々ノ方ヲ第二ニ置イタ方ガ大イニ順序ガ宜シカラウト
考ヘマシテ斯ク修正致シマシタ、夫レカラ第五條ノ第二ト申ス所ニ誣告罪收
賄罪ト云フ字ヲ加ヘマシタ、是レハ政府ノ原案ニハ定役ニ服スベキ輕罪ノ刑
ヲ犯シタルモノトアリマス、所デ衆議院デハ斯ウ修正シマシテ偽證罪云々ト
罪名ヲ列記スルコトニ致シテアリマス、其理由ヲ承ッテ見マスルト政府ノ原案
ノ通り定役ニ服スベキ輕罪ノ刑トアリマシテハ餘リ廣過ぎマス、譬ヘバ毆打
創傷トカ官吏侮辱トカ云フ罪ヲ犯シマシタモノハドウシテモ辯護士トナルコ

トガ出來スト云フコトニナルト甚ダ辯護士ト云フ職務上ノ性質ニ背クノ嫌ヒ
ガアルニ依ッテ先ヅ破廉恥……廉恥ヲ破ルト云フ様ナ人民ノ信用ヲ失フト云
フ様ナ性質ノ所謂タチノ惡ルイモノハ其モノ丈ケハ罪名ヲ掲ゲルコトニシナ
イト餘リ政府ノ原案ノ如ク定役ニ服スベキ云々ト云フデハ廣過ギルト云フ
デ偽證罪偽造罪云々ト云フコトニ衆議院ガ修正ヲ致シマシタ、デ委員會ニ於
キマシテハ大體衆議院ノ修正ガ宜シカラウ、政府ノ原案ノ通りデハ餘リ廣過
ギルト云フノデアリマスガ併シドウモ衆議院ノ修正通りデアリマスハ矢張り
前ニ述ベマシタ破廉恥ト云フ性質ノ中ニマダ洩レガアルト云フ所カラシテ、
刑法ヲ調ベマシタ所ガ誣告罪或ハ收賄罪ト云フ様ナモノハ、矢張り偽證トカ
詐僞トカ云フ様ナモノニ似タ性質ノモノデアリマシテ人ヲ誣告スル利ヲ貪
ルタメニ誣告スルトカ或ハ官吏デアッテ殊ニ判事檢事デ賄賂ヲ取ッテ免官ニ
ナッテ免官シタトカ云フ者ガ辯護士ニナルハ不都合ダ、是レハ詰マリ衆議院
ノハ少シ足ラヌ所ガアルト云フ所カラシテ誣告罪收賄罪ト云フ字ヲ茲ヘ加ヘ
ナケレバナラヌト云フコトヲ以チマシテ加ヘマシタ、唯今ノ所ノ「ハ」ノ字ヲ
「可」ノ字ニ直シマシタ、是レハ外ニ皆「可」ニナツテ居リマスカラ是レ丈ケ
「ハ」ノ字ニシテモ鈞合ガ付カヌカラ「可」ノ字ニ直シタノデ外ニ意味ハアリマ
セヌ、夫レカラ第十八條ノ原案ハ辯護士ハ第一回試驗及第者及第四條第一項
ノ資格ヲ有スル者ヲシテ實務修習ノタメ法廷ニ於テ其職務ヲ補助セシムルコ
トヲ得ト云フ即チ實務修習ノ方法ガ掲ゲテアリマシタ、是レハ前申シタ通り
デ實務修習ト云フコトヲ法律ノ上デ極メルニ及バヌト云フコトデ之ヲ廢シマ
シタ以上ハ實務修習云々ハ入ラヌカラ詰マリ此原案ノ第十八條ヲ九デ削ッテ
仕舞ヒマシタ、削ッテ仕舞ヒマシテ夫レカラ是レハ是非二十四條ヲ牽聯シテ
申シマセヌトイケマセヌカラ二十四條ヲ削ッテ所ヲ牽聯シテ申シマス、第二
十四條ニハ「辯護士會ハ地方ノ狀況ニ從ヒ其會員ヲシテ三百圓迄ノ積金ヲ爲
サシムルコトヲ得」トアッテ、是レハ衆議院ノ修正デアッテ政府提出ノ原案
ニハ辯護士ニ保證金ヲ出サセルコトガアリマシタノデ、是レハ即チ政府原案
ノ第十九條ト云フモノニ「辯護士ハ登錄ノ際其職務上ヨリ生スル賠償及過料
ニ充ツル爲メ保證金ヲ所屬地方裁判所ニ納ム可シ」云々ト云フコトガアリマ
シタ、其保證金ト云フヲ削ッテ衆議院デ積金ト云フコトニ換ヘタモノノ様ニ
本員等ハ考ヘマス、然ル處ガ積金ト云フモノハ甚ダ分ラヌ性質ノモノデアッ
テ單ニ積金ト云ヘバ政府提出原案ノ様ニ賠償及過料ニ充ツルモノデアリマセ
ヌ、積金デアアルカラ辯護士會ノ費用ニ充ツルヨリ外致シ方ガナイ性質ニナ
ル、ドウモ甚ダ不都合ノ性質ノモノデアアル、況ヤ三百圓迄ノ積金デアリマス
カラ、マサカサウ云フコトハアリマスマイガ極論スレバ三圓出シテモ五圓出
シテモ宜シイト云フ様ナ積金ノ性質ニナル、夫レナレバ一向何ノ役ニモ立タ

ズ詰マリ此衆議院デ入レタ積金ト云フコトハ政府原案ノ保證金ト云フモノヲ
削ッタ御ツキアヒニ入レタト外見エマセヌ、夫レデアリマスカラシテ此積金
ト云フモノハ斷然委員會デハ止メテ、夫レデ政府原案ノ先ヅ趣意ヲ採ッテ矢張
リ保證金ト云フモノヲ納メサセルト云フコトニシマシタ、保證金ヲ納メサセ
ルト云フコトヲ十八條ノ實務修習ヲ削ッタ後ヘ政府原案ノ保證金ノ規定ヲ入
レマシタ、全體保證金ト申スコトハ是レハ辯護士ノ制裁上ノタメニハ必要ナ
擔保ニナルモノデアリマシテ執達吏用規則或ハ公證人規則ナドモ皆保證
金ト云フモノガ極メデアリマス、夫レデアリマスカラシテ辯護士ニモ矢張り
保證金ト云フモノヲ設ケルコトガ適當デアラウ、全體辯護士ハ申ス迄モナク
依頼人ノ信用ヲ受ケテ貴重ナル職務ヲ行フ者デアリマスカラシテ品位ヲ高尙
ニシテ責任ヲ確實ニシナケレバナラヌ、夫レデアリマスカラ辯護士ガ若シ過
失ナリ不正ノコトガアリマスレバ適當ナル制裁ヲ設ケルハ必要デアリマス、
然レドモ制裁ヲ設ケルコト云ッテモ適切ノ制裁デナケレバ其效用ガ甚ダ少イト
考ヘル、今日代言人規則ニハ保證金ト云フモノハ一向設ケテハアリマセヌ、
故ニ不正ナル者ノ奸策ニ遭ヒマシテ依頼人ガ權利ヲ損害セラレタトカ云フコ
トノタメニ賠償ヲ求ムルニ致シマシテモ遂ニ其保證金ノ制度ノナイタメニ其
目的ヲ達スルコトガ出來マセヌ様ニナリマス、サウ云フ様ナ次第デハ辯護士
ノ品位ヲ保チ其責任ヲ確實ニスルコトガ出來マセヌ、又今日迄ノ代言人規則
ニハ財産上ノ懲罰ト云フモノハチヨットモアリマセヌ、然ルニ此度ノ辯護士
法ニハ過料、三十五條ニアリマス百圓以下ノ過料ト云フコトガアリマスガ斯
ウ云フ財産上ノ懲罰ヲ附シテアリマスカラ是非過料ニ充ツルタメ夫レ丈ケノ
保證金ヲ出スコトガ必要ニナツテ來マシタ、是レ等ノ理由ヲ以チマシテ積金
トスルノハ洵ニ道理ガ分ラヌ、夫レヨリモ賠償トカ或ハ過料トカ云フモノニ
充テルタメニ保證金ヲ出サセルト云フコトガ必要デアアルト云フコトヲ以テ此
十八條ヲ加ヘタ譯デアリマス、唯其保證金ヲ入レマシタケレドモ政府提出ノ
十九條トハ違ッテ居リマス、政府提出ノ十九條ニハ保證金ヲ所屬地方裁判所ニ
納ム可シト云フコトガアッタノデ、然ルニ此度委員會デ入レタノハ保證金ヲ
辯護士會ニ集メテ仲間デ預ッテ居ル様ニシマス、是レハ併ナガラ委員會ノ新
發明デハナイ、第二回ノ帝國議會ニ提出ニナツテ貴族院デ議シマシタ辯護士
法案ニハ丁度矢張り其保證金ヲ辯護士會ニ集メテ丁度委員會デシタ様ナコト
デアッテ夫レニ依リマシテ此度政府提出原案ノ地方裁判所ニ納ムルヨリモ辯
護士會ノ仲間合デ預ッテ居ルガ宜カラウ、第二回ノ政府案ニ倣ッテ辯護士會
ニ預ケルト云フコトニ致シマシタ、夫レカラ保證金ノコトヲ十八條デ申シタ
所ノ實務修習ヲ削ッタ下ヘ十八條トシテ入レマシタノハ是レハ保證金ヲ納メ
ルト云フコトハ辯護士ノ義務デアリマスカラ是レハ第三條ノ辯護士ノ權利義

務ト云フ所ニ置クガ適當ト云フ詮議ヲ以テ十八條ノ所ヘ保證金ノコトヲ入レ
マシタ次第デアリマス、夫レカラ第三十二條、第三十二條ニ信用ヲ失フ可キ
ト云フ字ヲ加ヘマシタ、是レハ政府提出案ニハ斯ウアツタノ辯護士ニシテ
職務上ノ義務ニ違背シ又ハ信用ヲ失フ可キ所爲アルトキハ會長ハ云々ト斯ウ
アリマス、是レハ衆議院デ信用ヲ失フベキト云フコトハ削除ニナツタ、其削
除ニナリマシタ理由ヲ政府委員カラ承リマスレバ敢テ斯ウ云フコトニ信用ヲ
失フベキト云フ字ヲ書イテ置カンデモ辯護士會ノ會則ニ違背シテ置ケバ
即チ辯護士會ノ會則ニ信用ヲ失フベキ所爲ヲ極メルカラシテ是レハ辯護士會
ノ會則ニ任セサヘスレバ宜シト云フ理由デアッタ様ニ承リマスル、果シテ
サウカドウカ存ジマセヌガ本員ハ左様ニ承ツテ居ル、然ル處ガ必シモ信用ヲ
失フベキ所爲ト云フモノヲ辯護士會ノ會則ニ入レルコトトモ考ヘラレマセ
ズ、又入レタニシテモ中ニ辯護士會會則ニ網羅シテ其信用ヲ失フベキ所爲ヲ
列記シ盡スト云フコトハ到底是レハ出來ナイコトデアラウト考ヘマス、夫レ
カラ又辯護士會會則ト云フモノハ各地デ極メルモノデアリマスカラ譬ヘバ甲
ノ辯護士會會則デハ信用ヲ失フベキ所爲ト極メテモ乙ノ辯護士會會則デハ信
用ヲ失フベキ所爲ト致シマセヌ、地方ニ依ツテ違ヒマシテ是レハ甲ノ場所デハ
極メ乙ノ場所デハ極メヌト云フ甚ダ不公平ノ結果ヲ來サウト思ヒマスデ、
前ニモ述べマシタ通り辯護士ノ地位ヲ高クシテ信用ニ關スルコトヲ嚴重ニ監
督シヤウト云フニハ此一番重大ナ辯護士ノ信用ヲ失フベキコトヲシテハナラ
ヌ、之ヲ禁ズルハ甚ダ必要デアラウト思ヒマス、是レハ判事懲戒法ノ第一條ニ
官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フベキ所爲アリタルトキハ判事ヲ懲戒スト云フコ
トガアリマスカラ丁度夫レニ倣ツテ矢張り政府原案ノ通り信用ヲ失フベキト
云フ字ヲ加ヘタガ宜カラウト云フ所カラ政府原案ニ戻シマシタ、サウスルト
或ハ信用ヲ失フベキト云フコトハ隨分廣イカラ甚ダ辯護士ノタメニ不安心千
萬デアルト云フ御説モアリマセウカモ知レマセヌガ是レハ其會長ガ常議員會
及總會ノ決議ニ依ツテ懲戒ヲ求メ輕卒ニ信用ヲ失フベキコトト檢察スルコト
ハ出來マセヌ、常議員會ナリ總會ニ於テ是レハ信用ヲ失フベキコトト決議シ
テ懲戒ヲ求ムルノデアリマスカラ容易ニハ出來マセヌ、又二項ニ檢察正ハ職
權ヲ以テ懲戒訴追ヲ檢察長ニ請求スヘシト云フコトガアリマスカラ檢察正ノ
思召、ドンナコトデモ信用ヲ失フト云フテ無暗ニ……無暗ト言ツテハ惡ルイガ
容易ニ訴追スルコトガアルカモ知レスト云フ御説モアルガ、抑、檢察正タル人
ハサウ容易ニ信用ヲ失フベキ所爲アリトスルコトモナシ、又良シヤ檢察正ガ
何カ心得違ガアツテモ檢察長ガ容易ニ承知セヌ、又檢察長ガ承知シタ所デ之
ヲ裁判スル所ノ懲戒裁判所ト云フモノ即チ控訴院ニ於テ五名ノ判事ガ列席ノ
上デ審判スルモノデアルカラ輕卒ニ極メル譯デアリマセヌ、斯ウ云フ理由

ヲ以チマシテドウモ衆議院ノ修正通りニ辯護士ノ會則ト云フモノ丈ケニ信用
ヲ失フベキ斯ウ云フモノヲ入レテ任シテ仕舞フト云フコトハ迎モイキマスマ
イト云フ理由ヲ以テ辯護士ノ職務上最モ大切ナル信用違背ノコト丈ケハ政府
案ノ通り掲ゲテ置クガ宜カラウト云フコトヲ以テ之ヲ掲ゲタ譯デ、先ツ修正
ヲ致シタノハ是レ丈ケデアリマス、此事ニ付キマシテ御質問ガアリマスレバ
本員ノ御答ヘノ出來ル迄ハ御答ヘヲ致シマスガ幸ニ委員ノ中ニハ十分辯護士
ノ實務ニ明ルイ御方モアリマスカラ本員ノ御答ヘシ難イコトハ他ノ委員諸君
カラ御答ヘニ相成ラウト考ヘマスシ、又原案ノコトニ付キマシテ御尋ガアリ
マスレバ政府委員カラ御答ヘガアラウト思ヒマス、
○子爵酒井忠彰君　チヨット委員長ニ質問致シタウゴザイマス、唯今修正
ノ箇條ヲ縷々御演説ニナリマシテ能ク其旨趣ヲ承知致シマシタガ其第十八條
ノ修正案ノコトデアリマス、實ハ本員ノ如キ餘リ辯護士、所謂代言人ニ關係
ノナイ者ガチヨット此案ヲ見マスルト實ニ辯護士ト云フモノハ往々不都合ノ
コトヲサレ得ラル、ト云フ様ナ感じガ隨分此修正デハ起ラウト思ヒマス、
然ルニ委員長ハ此點ニ向ツテ百圓以上ノ保證金ヲ要スルト云フモノハ職務上
ノ賠償及過料ノ方ノコトハホンノ趣意丈ケニシテ要スル所ハ品位ヲ高ムル一
點ニアルト斯ウ御述ベニナリマシタガ、品位ヲ高ムルト云フコトニナリマス
ルト既ニ此案デアリマス政府案デハ百圓以上ニ二百圓以下ト記シテアリマシ
テ是レハ衆議院ノ方デ修正致シマシタ三百圓マデニ修正ニナツタ、然ルニ唯
今ノ當院ノ修正デアリマス百圓以上トアリマスル、此以上ニ依リマシテ譬
ヘバ千圓萬圓ノ保證金モ隨分取り得ラル、ト云フ御精神デ此修正ヲ提出サレ
タモノデアリマスカ、或ハ縱令茲ニ百圓以上ト書イテアッタ所ガ詰マリ百圓
位ニ止メ得ラル、ト云フ御精神デ御修正ニナリマシタカ夫レヲ一應辯明ヲ請
ヒタウゴザイマス、
○箕作麟祥君　御答ヘ致シマスガ、品位ヲ高ムルト云フノハ所謂財産モ何
ニモナイデ人ニ損害ヲ萬一掛ケタトキハ……俗ニ申ス素寒貧ト云フモノデア
ツテハナラスト云フノデアリマスガ、即チ修正案ニ書イテアリマス通り其保
證金ノ目的ハ何カト云ヘバ賠償、夫レハ無論辯護士ト云フモノハ惡ルイコト
ヲスル性質ノモノト申シタ覺エハアリマセヌガ、萬一賠償過料ト云フコトガ
アリマシタ時分ニハ之ニ充ツル丈ケノモノハ拵ヘテ置カヌケレバナラスト云
フコトカラ保證金ヲ設ケタ次第デアリマス、夫レカラ百圓以上トアレバ千圓
デモ萬圓デモ取ル積リカト云フコトデアリマシタガ、是レハ前ニ述べマシタ
通り第二回ノ議會ノ時分ニ政府カラ提出ニナリマシタ議案ニハ二百圓以上ノ
保證金ヲ其辯護士會ニ預クベシトアリマシテ唯二ノ字ガアッタ丈ケデ、夫レ
ト同ジコトガアルガ二百圓デハ餘リ多クアルト云フノデ二ノ字ヲ削ツテ百圓

ニシタノデ何デモ最下限ガ百圓ヨリ下デハ行カス、千圓萬圓ト云ツテハ些ト御答ヘニ若ミマスガ或ハ千圓位ハ取ルカモ知レヌ、極論スレバ千圓萬圓十萬圓モ取ルカモ知レヌガサウ云フコトハ今日ナイコトデアリマス、三百圓トカ七百圓トカ或ハ千圓位ハ取ルカモ知レヌセヌ、是レ丈ケヲ御答ヘ致シマス、

○村田保君 本員ハ特別委員長ニ質問ヲ致シタイコトガアリマス、此五條デゴザイマスガ是レハ辯護士タルコトガ出來ヌト云フコトヲ揭ゲタモノデアリマスガ、此第一ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者但國事犯ニシテ復權シタルトキハ此限ニ在ラヌト云フコトガアリマスガ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノハ公權ヲ剝奪スルト云フコトニナツテ居ル、併ナガラ國事犯デ復權スレバ剝奪ヲ復權シ得ラレルト云フコトデゴザイマスカラ公權剝奪中ノモノハ辯護士ニナレヌト云フコトハ明ニ分ツテ居リマス、公權停止中ト申シマスルモノハ第二ニ揭ゲテアリマスモノノ外ニモ大分ゴザイマス、刑法ニ依リマスモマダ澤山ゴザイマス、又其監視中ノモノモ公權停止中ノモノデ此公權停止中ノモノガ此儘デゴザイマスルト云フト辯護士トナルコトガ出來ルト云フコトニドウモ見エマス、或ハ是レハ政府提出案ノ如クニ定役ニ服スベキ輕罪ヲ犯シタル者トアレバ無論附加刑ノモノハ這入リマスガ、斯ウ罪ヲ揭ゲテゴザイマスト此外ノ罪ハ構ハヌト云フ様ニ見エマス、若シ何ナラ何條デモ示シテ御目ニ掛ケマスガ此外ニ見エテ居リマス、輕罪デ公權ヲ停止サレタモノハ箝ラヌト云フコトニナリマシテハドウモナルマイカト思ヒマス、夫レデ公權停止中ノ此外ノモノデ公權停止中ノモノハ辯護士ニナラレマスカナラレマセヌカト云フコトヲ一應確メタイノト、又此第二ノ御修正ニナリマシタ所ハ是レハ尤モ委員會デ修正ニナリマシタコトデハゴザイマセヌ衆議院デ修正ニナリマシタコトデハゴザイマスガ始ニ偽證罪、偽造罪、盜罪、詐偽罪ト斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、然ルニ此盜罪詐偽罪ト申シマスコトハ此詐偽ノ中ニハ偽證罪偽造罪モアリ又詐欺取財モアレバ詐稱罪モアル、官吏ノ身分ヲ詐稱スルト云フ詐稱罪モアリマス、皆此詐偽罪ニ含ンデ居ル、刑法中ニ詐欺罪トアル詐欺ト云フノハ欺クト云フ字ガ書イテアル、偽ルト書イテナイ、詐欺罪偽造罪ト二ツアリマス、詐欺罪ノ罪ト此偽造罪ノ罪ヲ合セマシタモノガ詐偽罪トナツテ居ル、夫レハ既ニ今日代言人規則ニモ或ハ公證人規則ニモ其事ガ出テ居リマス、公證人規則ニハ盜罪、詐偽罪、賄賂罪、及贓物ニ關スル罪、斯ウ云フコトニナツテ居ル、其盜罪詐偽罪ト云フノハ即チ茲ニ揭ゲテアリマス偽證罪偽造罪ト云フモノモ這入リマス、若シ之ヲ上ニ揭ゲテ置キマシテ下ニ盜罪詐偽罪ト揭ゲテ置キマスト此詐偽罪ト云フモノハドンドンモノニナリマス、詐偽ノ詐偽ハ此詐偽デハナイ、私ノ見マスル所デハ重複ト申シテ宜シイカ、ドウモ分ラナイ文面ト本員ハ認メマス、其邊ハ如何ナル御考ヲ以テ盜罪詐偽罪ト今日ノ法律ニ出テ居

リマスノニ此外ニ偽證罪ダノ偽造罪ヲ加ヘラレタノデアリマスカ此邊ヲ一ツ御尋ネ致シタイ、夫レカラ此十八條ノ所ニ本員ハチヨット御尋ヲ致シタイ、特別委員ハ第二回ノ時ニ於キマシテ矢張り此保證金ヲ辯護士會ニ納メルコトニナツタト云フコトデアリマス、成程本員モ其時分ハ特別委員デゴザイマシタカラ心得テ居リマスガ併シ賠償過料ニ充ツルタメデハナカッタ、其時分ハ詰マリ身元保證金ノ性質デ預ケル積リデアッタ、所ガ今度ハサウデゴザイマセヌ、賠償過料ニ充ツルタメト云フコトデ賠償及過料ニ充ツルタメニ百圓以上ノ保證金ヲ辯護士會ニ預ク可シト云フコトニナツテ居ル、賠償ト申シマスト限リノナイコトデ、賠償ノ場合ニハドノ位ノ賠償ニナリマスカ分リマセヌノニ豫メ賠償ニ充ツルタメニ是レ丈ケノ金額ヲ見積ツテ置クト云フコトハ恐ラク出來マスマイト思ヒマス、成程今日ノ公證人ニ致セ執達吏ニ致セ特別委員長ノ言ハレル通り保證金ガゴザイマスガ多クハ是レハ身元保證金ト云フモノニナツテ居ル、今度ノ様ニ豫メ賠償金マデ見積ツテ幾ラトサレタノハドウ云フ譯デアルカ一應伺ヒタイ、夫レカラマダーツゴザイマス、是レハ文字上ノ聊ノコトデゴザイマス、修正ノ第二十七條ニ謝金ト云フコトガアルガ此謝金ト云フコトハ本員ノ考ヘマスル所デハ辯護士ノ手数料デアルト思フ、新法典頒布以來ハ此謝金ト云フモノハ醫者トカ或ハ教師トカ云フ者ニ用ヒルコトニナツテ居ル、夫レハ箕作君ハ能ク御案内ト存ジテ居リマスガ新法典デハ辯護士トカ執達吏トカ公證人トカ云フモノハ皆手数料トチヤント法律ニ極ツテ居リマス、此度之ヲ特ニ謝金ト云フ字ヲ加ヘラレマシタノハ或ハ間違ヒデハナイカト存ジマス、夫レトモ本員ガ間違フテ居リマスカ知リマセヌガ特ニ茲ニ謝金ト云フ字ヲ置カレマシタノハドウ云フ譯デアリマスカ是レ丈ケヲドウゾ……

○箕作麟祥君 御答ヲ致シマス、第一ハ第五條ノ第二ト申ス所ノ御質問デアリマシタガ茲ニ列記シタ輕罪ノ外ノ其他ノ輕罪ノコトニ付テ公權停止中ノモノハドウスルカト云フ御質問デアリマシタガ其事ハ委員會デハチットモ詮議ハナカッタ、無論他ノ輕罪ノタメニ公權停止中ノモノハナレヌニ相違ナイト思ツテ居リマシタガ別ニ此事ニ付テ之ヲドウスルスルト云フ論ハナカッタ、是レハ衆議院ニ於テ斯ノ如クナツタ以上ハ政府ノ原案ハ廣過ギルカラ成ルベク狹クシタガ宜カラウ即チ信用ヲ失ヒ廉恥ヲ破ルト云フ……尤モ少々ハ不足デアアルガ精神ハ甚ダ宜カラウト云フコトデ賛成シタノデアリマスガ茲ニ列記ノ外ノ公權停止中ノ者モ無論這入ルト思ヒマスガ此論ハ委員會デモ其言ハレマシタガ成程詐偽罪ト云フモノハ刑法ニハアリマセヌガ衆議院デ偽證罪、偽造罪、盜罪、詐偽罪トシタノハ偽造罪ノ外ニ詐偽罪詐欺取財ト云フモノガアルノデ偽證偽造ノ外ニ詐偽ノ罪ガアルト見マシタノデ是レモ唯今村田

君ノ詳ナ刑法上ノ御質問ノ様ナ詮議ハナカッタ、唯委員會ニ於テハ政府案ハ餘リ廣過ギテ行カスカラ衆議院デ之ヲ狹バメタノ宜シイ、宜シイガ少々不足ダカラ誣告罪收賄罪ヲ加ヘタガ宜カラウト云フコトデ是レモ格別ムツカシイ詮議ハナカッタト申上ゲルヨリ外仕方ガナイ、夫レカラ第十八條ノ賠償過料ト云フコトハ前ノ政府提出案ニハナカッタト云フ御問デアリマシタガ是レハ第二回ノ貴族院ニ提出ノ政府案ニハアッタ此通りアッタ、辯護士ハ其職務上ヨリ生ズル賠償及過料ニ充ツルタメ辯護士會則ト云フ會ノ一字ガナカッタ辯護士會則ニ定ムル所ニ從ヒ二百圓以上ノ保證金ヲ其辯護士會ニ預クベシトアル、詰マリ其儘ヲ採用シタノデ唯違ッタノハ辯護士會ノ會ノ字ヲ入レタノト二百圓ノ二ノ字ヲ削ッタノデアトハソク此儘賠償過料ト云フコトモ這入ッテ居ル、茲ニハ持ッテ居リマセスカラ朗讀ハ出來マセスガ私ノ席ニ戻リマシタ朗讀致シテモ宜シウゴザイマス、夫レカラ二十七條ノ謝金ノコトデアリマスガ是レハ政府提出案ノ二十七條ニアル、是レハ何トモ委員會デハ謝金ノコトハ論ハナカッタ、此謝金ハ何故入レタト云フコトデアリマシタガ是レハ政府提出案ノ儘デ衆議院デモ直サナカッタ、委員會デ直サヌノデアリマスカラ是レハ政府委員カラ御答辯ヲ煩シマス、

○村田保君 尙ホ箕作君ニ質問致シタイ、此第二ノ所ニ更ニ委員會デ誣告罪收賄罪ト云フモノヲ入レタ、此誣告罪收賄罪ヲ入レマシタノハ無論入レンデモ宜イト云フ考デゴザイマスガ、本員ノ考デハ若シ斯ウ云フコトヲ揭ゲレバマダ外ニ揭ゲタイト思フモノガアル、例ヘテ見レバ裁判官ガ收賄ドコロデハナイ其上酌量スルコトモアレバ陷害スルコトモアル、罪ノ有ルモノヲ無イト隱シ或ハ罪ノ無イモノヲ有リトシテ人ヲ陷レル點モ刑法ニゴザイマス、又被告人ニ恐嚇ヲ加ヘタ所爲ナドモアリマシテ其外ニモサウ云フ罪ヲ揭ゲテ見マシタラバ……サウ云フコトヲ辯護士ハスルコトハ出來ヌダラウト思ヒマス、其他ニモサウ云フコトガアラウト思ヒマスガ夫レ丈ケデ宜シイト云フ御考デアリマセウカ、又斯ク停止公權或ハ盜罪詐欺罪ノコトニ付キマシテ或ハ謝金ノコトニ付テハ特別委員長ニ於キマシテハアレバ直サンデモ宜イト云フ御考デアリマセウカ、夫レヲ確メテ置キタウゴザイマス、

○箕作麟祥君 謝金ノコトカラ先キニ御答ヘ致シマスガ、別ニ詮議ハナカッタト云フヨリ外仕方ガナイ、夫レデゴザイマスカラ立案ノ精神ハ即チ政府ニアルノデゴザイマスカラ政府委員カラ御答ヘニナッタレバ能ク分ルダラウト思ヒマス、夫レカラ收賄罪ト誣告罪ヲ入レタノデ十分ト思ッタカト云フ御問デアリマスガ即チ十分デアルト思ッタカラ其通りニシタノデアルガ、詰マリ是レハ一ト通り刑法ヲ調ベタノデアリマスガ先キニ數度述べマシタ通り人ノ信用ヲ失ヒ廉恥ヲ破ルト云フ様ナ種類ノ罪ハ是レデ足リル、其他ノコト

ハ成程犯罪ノコトデアリマスカラ皆ドシナ罪デモ惡ルイコトニハ違ヒナイ、併ナガラ此辯護士ノ職ト並ビ行ハレヌ様ナ廉恥ヲ破ルト云フ様ナ罪ノ種類ニ付テハ是レデ足リルト委員會デハ決シタモノデゴザイマスカラ不足トアレバ又夫レ丈ケノ御修正モ出マセウト委員會デハ夫レ丈ケノ詮議デアリマス、

○村田保君 尙ホ夫レデハ御尋ネ致シタイ、箕作君ハ辯護士ガ信用ヲ失フ、サウ云フモノダカラシテ是レ丈ケノモノヲ加フルト云フコトデゴザイマスガ身分ヲ詐稱スル罪ハ信用ヲ害スル罪ニナッテ居リマス、刑法中ニモ詐稱罪ト云フモノハ信用ヲ害スル罪ノ中ニアリマシテ信用ヲ害スルコトノ最モ大ナルモノデアルト見ル、刑法ニ定メタル身分ヲ詐稱スルコトハ此文面ニハゴザイマセスガ夫レハ如何デゴザイマセウカ、

○箕作麟祥君 身分ヲ詐稱スルコト云フコトモ夫レモ信用ヲ害スルコトデアリマセウガ即チ廉恥ヲ破ルト云フコトハ財産上卑劣手段ヲ以テキタナイ、ケチナ所爲ヲスルコトヲ申シタノデ、身分ヲ詐稱スルコトモ無論惡ルイコトニ相違ナイカラ刑法ニ規定ガアル、ナレドモ唯身分ヲ詐稱シタカラト云ッテモ別ニ其タメニヅルイ事ヲシテ嘘ヲツクコトガナケレバ強チ辯護士ノ性質ニ並ビ行ハレナイトハ思ハレマセス、夫レ故ニ入レマセス、

○村田保君 尙ホ夫レナラバ財産上ノ特ニキタナイコトヲスルガタメニ之ヲ加ヘタト云フコトニナレバ偽證罪ハ如何ノモノデアリマセウカ、

○箕作麟祥君 偽證ヲ致スノハ即チ偽リノ證明ヲ述ベテ財産上ノ卑劣ノコトヲスルガタメデ唯偽證スル譯ハ恐ラクハナイト云フ考デ衆議院ニ同意ヲ表シマシタ、此上ハ村田君ノ御修正ヲ第二讀會ニ御提出ニナルヨリ仕方ガナイ、委員會ノ意見トシテ外ニ述ベルコトハナイト思ヒマス、

○侯爵中御門經明君 政府委員ニ質問ヲ致シタイ、此法案ノ第六條ニ辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ズ但帝國議會議員、府縣會常置委員トナルコトガ出來ルト云フコトニナッテ居リマスガ府縣會ノ議員トハナレナイノデゴザイマセウカ、府縣會議員ノコトハ茲ニ這入ッテ居リマセス、承リマスノニ東京府ノ府會議員ハ旅費ノ外ハ實際報酬ハ受ケヌサウデゴザイマスガ他ノ地方ノ縣會議員ハ皆一日四圓トカ五圓トカノ報酬ヲ受ケテ居ルノデゴザイマス、其報酬ヲ受ケテ居ル府縣會議員デハナレナイコトデゴザイマセウカ夫レヲ御尋ネシタイ、

○箕作麟祥君 御答ヘ致シマスガ是レハ委員會ニ於テハ政府案ヲ一字一點モ修正致シマセス、衆議院モ修正シナカッタ、是レハ本員ガ十分講究シマセス所ヨリ御答ヘ致スヨリハ矢張り是レモ政府委員カラ御答ヘニナッタ方ガ適當ト存ジマスカラ本員ハ差控ヘマシテ御答ヘ致シマセス、

○政府委員(清浦奎吾君) 中御門君村田君ノ御質問ニ合セテ答辯ヲ致シマ

ス、中御門君ハ第六條ノ御質問デゴザイマスガ是レハ其辯護人ハ報酬アル公務ヲ兼スルコトハ得ナイカト云フ報酬ト云フ字ニ眼ヲ注カレタノ帝國議會議員、府縣會常置委員トナルハ此限ニアラズト云フ即チ報酬アル公務ノ取除ケヲ附ケマシタノハ帝國議會府縣會常置委員ハ何レモ皆報酬アル公務デアルノデゴザイマス、報酬アル公務ヲ兼スルコトハ得ヌト云フコトノ取除ケガ無カッタナラバ辯護士ハ帝國議會ノ議員トナルコトモ府縣會常置委員トモナルコトモ出來ナイト云フ所カラ此取除ケヲ造ッタノデアル、又唯今御問ノ府縣會議員トナリ或ハ郡町村會議員トナル是レハ府縣會或ハ郡市町村會ノ議員ニハ別ニ報酬ハナイノデゴザイマス、所謂名譽職デアルノデアル、カラ致シテ別ニ府縣會議員云々ト云フ様ナコトハ此ニ述ベマセヌ精神デゴザイマス、御問ガ判然致シマセヌデゴザイマスガ私ノ聽取リマシタ所デ夫レ丈ケ御答ヘ致シマス、夫レカラ村田君ノ御問ハ謝金ト云フコトデゴザイマスガ是レハ別ニ深イ意ノアル次第デモアリマセヌガ現行ノ代官人規則ニ矢張り代官人ガ手数料トシテ取ル所ノ金ハ謝金ト云フ文字ガ使ッテアルノデゴザイマス、代官人ハ謝金ノ定メヲドウスルスルト云フ所ニ總テ手数料ノコトヲバ謝金ト云フ字ガ使ッテゴザイマスカラ即チ代官人規則ニ是レマデ規定シテアル所ノ文字ヲツクリ其儘用ヒタケノコトデゴザイマス、夫レカラ起立ノ序ニモウ一言述ベテ置キタイノデゴザイマスガ此第二ハ衆議院ニ於テ修正ニナリマシタ事柄デ固ヨリ政府提出案ニハ定役ニ服スベキ輕罪ノ刑云々トアッタノデ夫レヲ斯ク衆議院ニ於テ修正ニナリマシタ、其趣意ハ先刻算作委員長ヨリ述ベラレマシタ通りノ精神ニ違ヒナイノデゴザイマス、唯私ガ此事ニ政府委員トシテノ同意不同意ハ措キマシテ衆議院ノタメニ一言辯護ノタメ陳述致シタウ考ヘマスルノハ此詐僞罪ト云フ事柄ガ村田君ノ御述ベニナル所デハ詐僞罪ト云フ文字デアッテ見レバ或ハ身分ヲ詐稱スルカ種々ナモノマデモ這入ル様ニ見エル、或ハ詐僞罪ト廣ク包括シタキニハ偽證罪偽造罪モ即チ詐僞罪デアル、……或ハサウ見エルカモ知レマセヌデゴザイマスガ是レハ衆議院ノ委員會並ニ本會ニ於キマシテモ夫レ等ニ關スル議論ハ別ニ出マセヌデゴザイマシタガ、併ナガラ刑法ノ第五節ニ「詐僞取財ノ罪及ヒ受寄財物ニ關スル罪」斯ウ云フコトガゴザイマス、即チ詐僞取財受寄物費消罪云々ト云フ様ニ列ベタ書キ方ニナッテ居リマスカラ致シテ廣ク身分詐稱ノ如キコトマデモ概括スル衆議院ノ精神デナイト云フコトハ私ハ斷言シテ宜カラウト思ヒマス、ト云フモノハ政府提出案ハ定役ニ服スベキ輕罪ニ處セラレタ者トシテハ餘リ廣クナルカラ、依ッテ成ルベク辯護士ノ職務ニ關スル所謂信用ヲ保ツト云フガ如キ必要ナル破廉恥ノ性質ノモノヲ入レタ方宜カラウト云フコトデ明ニ委員會デハ反對ガナイ、此精神カラ推シテ見マシテモ詐僞罪ト云

フコトハ廣ク包括スル趣意デハナイ、即チ村田君ノ申サレタ如ク身分ヲ詐稱スル宿屋ニ泊ッテ居ッテ巡查ガ何カ尋ネニ來タ時ニ少シ場合ノ惡ルイコトガアツタカラ何カチヨット名ヲ詐稱シタト云フ様ナコトニ關スル罪ヲ犯シタ者マデモ辯護人ニナレヌト云フ精神デハナイト云フコトハ私ハ其點カラ致シテモ斷言シテ宜カラウト思フノデゴザイマス、夫レカラモウ一ツハ此公權停止ノ御説ガ出マシテゴザイマスガ私モ政府委員トシテハ衆議院ノ委員會ニモ列席シタコトデゴザイマスカラ此事ノ第二項ニ政府案ヲ斯ク修正シタト云フコトニ付テ同意不同意ハ暫ク措キマシテ此事モチヨット述ベテ置キタイト存ジマスルガ、此公權停止ハ御承知通り刑法ノ三十三條ニ「禁錮ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス現任ノ官職ヲ失ヒ及ヒ其刑期間公權ヲ行フコトヲ停止ス」夫レデ刑期間停止サレルコトニ付キマシテハ別ニ公權停止中ト云フコトヲ玆ニ掲グルノ必要ハナイト云フコトハ申スマデモナイコトと思フ、監獄ニ拘禁サレテ居ッテハ辯護士ノ職務ヲ行フコトノ出來ヌノハ勿論ノコトデアリマス、夫レハ夫レデ宜シイガ村田君ノ御疑ヒノアル所ハ其次ノ三十四條ニ「輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ附シタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヒス監視ノ期限間公權ヲ行フコトヲ停止ス」即チ是レ丈ケノコトニナルダラウト思フ、監視ノ期限間公權停止ノコトハ如何ナルダラウカト云フ御尋ニ詰リ歸スルダラウト思フ、是レハ或ハ斯ウアリマシタ方宜イカモ知レマセヌデゴザイマスガ詰マリ此事ニ付キマシテハ別ニ衆議院デハ異論ハナカッタ次第デゴザイマス、之ヲ一應……

○村田保君 唯今政府委員カラ致シマシテ本員ノ質問ニ對シテ答辯ガゴザリマシタガドウモ政府委員ノ説明ハ甚ダ曖昧ナル御答辯ノ様ニ本員ハ考ヘマス、此謝金ノコトニ付キマシテハ今日ノ代官人ノ規則ニ謝金トアリマスルカラ夫レヲ用ヒタト云フコトデアリマスガ、今日ノ代官人規則ト云フモノハ如何デゴザリマスカ之ヲ廢シタ後デゴザリマスカラ代官人規則ト云フモノハナイノデアリマス、是レハ法律デゴザリマセウ司法省ノ達ト本員ハ考ヘマス、是レハ前ノモノデ、今日新法典ト云フモノガ出マシテカラ今日現ニ行ハレテ居リマスル所ノ民事訴訟法ニモアレバ又刑事訴訟法中ニモアル、此辯護士又執達吏ハ總テ手数料トアル、夫レデ辯護士執達吏ハ總テ手数料トチャント極テアルノデ、謝金ト云フコトハ醫師トカ教員トカ云フモノニハ謝金ト云フモノガ設ケテアリマスノデ、其他ハ新法典以來手数料ト云フコトニチャント極テ居ル、法律ニ於テ辯護士ト云フモノハ手数料ト云フコトニ極ッテ居ル、夫レヲ代官人規則ニ謝金ト云フコトガアルカラ辯護士法ニモ謝金ト云フコトヲ加ヘテモ夫レデ差岡ナイト云フ御辯明デアリマシタガ是レハ甚ダ本員ハ政府委員ノ意ヲ解シ得ナイ、全ク是レハ本員ハ一言ニ申サバ最初司法省ガ此法案ヲ

出ス時分ニ氣ガ附カナカタノデ、今日ノ民事訴訟法其他ヲ見レバ辯護士ニハ手數料ト云フコトガ極ツテ居ル、夫レヲ謝金ト致ス道理ハナイ、全ク本案ハ調査ノ時分ノ手落ダト思フ、法律ヲ見レバ果シテ謝金トハアルマイト存ジマス、夫レニ第五條ノ第二項ニ付テ衆議院ノタメニ辯明ヲスルコト云フ様ナ御話デゴザリマシタガ夫レデ盜罪詐僞罪ト云フモノハ廣ク見ナイデ受寄物費消罪僞證罪ノ様ナモノマデヲ加ヘタト云フコトデアリマス、サウスルト今日ノ既ニ法律ナリ公證人規則ナンゾニゴザリマス盜罪詐僞罪ト云フコトハドウ云フ風ニ政府委員ハ御解釋ニナリマス、夫レヲ一ツ伺ヒタイト思ヒマス、

○政府委員(清浦奎吾君) 唯今謝金ノコトハ唯此謝金ト云フ文字ヲ何ニ依ッテ用ヒタカト云フコトヲ述ベタノミデ決シテ謝金デ差間ナイトハ申サヌノデゴザリマス、或ハ村田君ノ手數料ノ方デ宜シイカモ知レマセヌ、夫レガ宜シケレバ政府委員モ決シテ其事ニ付テ謝金デハ惡イトハ申シマセヌ、或ハ此謝金ト致シタノハ調ベノ手落カモ知レマセヌガ詰マリ謝金ト云フ文字ヲ用ヒマシタノハ是レ迄代言人規則ニモ謝金トアリマスカラ夫レヲ襲用シタマデノ趣意ヲ申述ベタノデアリマス、夫レカラ此先キノ所デゴザリマスガ是レハ實ハ衆議院ノ修正ニ係ル所ノモノデ今村田君ノ御質問ガ出テ見マスレバ夫レハ御尤ト思フノデゴザリマス、併ナガラ衆議院デ斯ク修正シタ所ノ其精神カラ推シテ見マスレバ先刻モ述ベマシタル如ク丁度刑法ノ三百九十條ノ所ニ詐欺取財ノ罪及受寄財物ニ關スル罪ト斯ウ第五節ニ合セテアルカラシテ、又衆議院ノ此修正ノ精神ハ餘リ概括シナイ其職務ニ尤モ必要ナル破廉恥ノ性質ノ如キモノニ限ルト云フ精神カラ修正シタノデ、即チ此盜罪詐僞罪ト云フモノハ身分上ノ如キモノマデモ廣ク概括スル精神デハアルマイト云フコトヲ申述ベタニ過ギス話デアリマス、

○侯爵中御門經明君 一ツ御尋ネ致シタウゴザリマス、本案ノ修正ノ三十二條以下ニ懲戒ト云フコトガ掲ゲテゴザリマスガ……

○政府委員(清浦奎吾君) 何條デゴザリマス、何條ノ御問デゴザリマス、○侯爵中御門經明君 修正ノ三十二條懲戒ノ所……此懲戒法ヲ用ヒル事柄ニ付テ御尋ネ致シタイノデアリマス、此本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行スト云フコトガアリマスカラ是レガ成立チマシタ以上ハ五月一日カラ此法律ガ實施サレル、夫レヨリ辯護士ト云フモノガ出來ルノデゴザリマスガ、現今ノ代言人デ居リマスモノモ五月一日カラ辯護士ニナルノデアリマスカラ若シ五月一日以前ニ代言人ノ職務ヲ取扱ッテ居ル中ニ不都合ナコトガゴザリマシテ辯護士法ニ依ッテ懲戒裁判所ヲ開始シテ即チ此修正ノ三十四條ニゴザリマス第四ニ當ルベキ除名シナケレバナラヌト云フ様ナ不都合ナコトガ後ニ發覺致シマシタトキハ代言人ヲ除名スルハ現行ノ代言人規則ニ依ッテハ懲戒ハ

出來ヌノデゴザリマス、矢張り本法實施以前ニ代言人ノ職務上除名サルベキ懲戒ノ所爲ガアッタトキニ尙ホ除名ナリ停職ヲ命ズルコトガ出來ルノデアリマセウカ、現今ノ代言人中萬一……此法律實施後ハ懲戒ヲ用ヒルコトガ出來ルヤ否ヤト云フ區分ヲ御尋ネ致シタイ、

○政府委員(清浦奎吾君) 除名ト云フ懲戒罰目ハ現行ノ代言人規則ニモ此度ノ辯護士法ニモ新舊共ニ加ッテ居ルコトデゴザリマス、ソコデ此法案ノ實施以前ニ除名ニ處セラルベキ様ナ所爲ヲ代言人ガ犯シテ此法案實施前ニマデ處分ガ濟マズニ本案ガ實施後ニ發覺シタトキハ舊ノ代言人規則ニ依ッテ處分スルカ或ハ此辯護士法ニ依ッテ鄭重ナル手續ヲ盡シテ控訴院ニテ懲戒裁判ヲスルカト云フ、其處分方ハ古キニ依ルカ新シキニ依ルカト云フコトハ新舊代言人規則共ニ罰目ハアリマス、此度ノ辯護士法案ニモアリマスガ其處分方ノ御問ヒデアリマス、

○侯爵中御門經明君 チョット唯今ノハ少シ分リ兼ネマスガ……
〔山口尙芳君演壇へ御出デニナッテ……ト述フ〕
〔政府委員清浦奎吾君演壇ニ登ル〕

○政府委員(清浦奎吾君) 分リマセヌノデゴザリマス、○侯爵中御門經明君 仕舞ノ御詞ガ少シ伺ヒ兼ネマシタ、

○政府委員(清浦奎吾君) 唯今ノ御問ノ趣意ハ除名ト云フ懲戒罰目ハ現行ノ代言人規則ニモゴザリマス、今度ノ法案ニモ掲ゲテゴザリマスカラ此罰目ハ新舊共ニ同ジデゴザリマス、今アナタノ御問ニナル所ハ此法案ガ實施以前ニ代言人ガ除名ニ當ルベキ様ナ所爲ガアッテマダ其處分ガ濟マヌ中ニ此法案ガ實施サレテ發覺シタナラバ其處分ノ手續ハ此法案ニ依ッテヤルカ、即チ現行代言人規則ニ依ッテヤルカト云フ處分方ノ御尋デゴザリマス、ソコガ少シ判然致シマセヌ、

○侯爵中御門經明君 私ノ質問致シマスルノハ現行ノ代言人規則ハ此辯護士法案ヲ實施スルト共ニ廢セラル、ノデアリマスカラ其廢シタ法律ヲ以テ處分スルコトハ出來マセスカラ本案ヲ實施シタル後ニ懲戒裁判ヲ開クト云フ様ナ場合ニハ迦ッテ懲戒處分ヲ得ル明文ガアリマセスカラ懲戒ヲスルニハ矢張り迦ッテ用ヒラル、積リデアリマス、代言人規則ハ無クナッテ仕舞ノカヲ無クナッタモノヲ生カスコトハ出來ナイカラ何ニ依ッテヤルカト云フ……懲戒法ヲ用ヒナケレバナリマセヌガ迦ッテ用ヒマスルコトニ致シマセヌケレバ如何スル精神デアリマス、
○政府委員(清浦奎吾君) 夫レハ代言人ニ關スル新舊ノ規則ヲ比照致シマシテ然シテ此度ノ法案ニ於テモ罰セラルベキモノデアリマスレバ即チ此法律ニ依ッテ懲戒ヲ施スト云フコトニナリマスノデアリマス、

○林宗右衛門君 本員モ一應政府委員ニ質問致シタイデアリマス、此修正ノ第三十六條デアリマス、即チ「現在ノ代官人ハ本法施行ノ日より六十日以内ニ辯護士名簿ニ登録ヲ請フトキハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得」ト云フ箇條デゴザリマス、此現在ノ代官人ニシテ現今報酬アル公務ニ從事シツ、アルモノハ無論報酬アル公務ニ就キマスレバ彼ノ第六條ニ依リマシテ辯護士名簿ニ登記ヲ請フトコトハ出來ヌデアリマス、或ハ此公務ニ公選上カテ舉ガリマスモノデアリマス、或ハ四箇年トカ七箇年トカ云フデアリマスガ此任期満期ノ日より六十日以内ニ矢張り辯護士名簿ニ登録スルコトガ出來ルモノデアリマス、カ其邊ヲ伺ヒタイ、

○政府委員(清浦奎吾君) 林君ニ御答ヘ致シマス、先達テ第一讀會ノ時ニモ林君ヨリ右様ナ御質問ガ出マシテ御答ヘテ致シテ置イタ積リデゴザリマス、報酬アル公務ニ就テ居ル代官人ハ即チ此法ノ實施セラレマスル以上ニ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ズト云フコトガ第六條ニ規定セラレテ居リマス、カラ致シテ報酬アル公務ヲ罷メテ辯護士トナルカ、辯護士ヲ罷メテ報酬アル公務ヲ務メルカ孰カニセスケレバナラヌコトデアリマス、ト申シマスル所以ノモノハ辯護士ハ其一種ノ營業デハアリマスルケレドモ司法機關ノ一デ即チ公務デアリマス、成ルベク其業務ハ専ラニ務メルト云フ主義ヲ取ツテ居ルノデアリマス、此第六條ノ精神ト云フモノハ商業ナンドハ出來ヌト云フコトモ商業ノ中ニハ品位ニ缺クル様ナ商業モアルカラシテ成ルベク品位ヲ保タシムルタメニ商業ハナラヌト云フ精神ト、又一ツニハ「公務デアリタメニ成ルベク所謂專業……ニ専ラナル様ニスルコトヲ精神カラ規定シテアルノデゴザリマス、即チ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ヌト云フコトハ專業……業ニ専ラナル所ノ精神カラ規定シテゴザリマス、カラ致シテ報酬アル公務ヲ兼スルコトヲ得ヌト云フコトハ出來マセヌ趣意ナノデゴザリマス、第二段ノ御問ハ何デゴザリマス、カ現今ノ免許期限ナラバ六十日ヲ經過シテモ宜シイカト云フ御問デゴザリマス、カ、

○林宗右衛門君 總テ名譽職ニハ任期ガアル、或ハ四箇年トカ七箇年トカ、其満期ノ日より六十日間ニ登記ヲ經レバ採用ニナルコトデアアルカト云フノ御尋デアリマス、夫レヲモウ一應述ベテ見マセウナラバ現今代官人ヲシテ市長ナラ市長ヲヤツテ居ルモノガアル、然ルニ是レハ即チ四箇年ナリ立チマスレバ市長ノ職ガ満期トナル、然ル以上ハ満期トナツタ以上ハ其日より六十日以内ニ辯護士ノ登録ヲ請ヘバ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得ルデアリマス、或ハ更ニ定メテアル所ノ試験ヲシテ辯護士ノ登記ヲ受ケルコトデアリマス、カ其件デアリマス、

○政府委員(清浦奎吾君) 夫レハ四年モ經過シタ後デアリマスレバ即チ此

三十六條ニ觸レマスルノデゴザリマス、カ更ニ試験ヲ受ケナケレバ出來マセヌノデゴザリマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 別ニ御發言ガゴザンセネバ表決ニ付シマス、即チ第二讀會ヲ開クベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数デゴザリマス、

○算作隣祥君 本員ハ特別ノ動議ヲ提出致シマス、唯今第二讀會ヲ開クト云フ方ニ決シマシタガ成規ニ依リマスレバ二日ノ後ニ開クベキコトデアリマス、實ハ本員ナドハ今日午後ニモ開キタイト云フ考デアリマス、本日デハ餘リ急デ恐ラクハ諸君ノ同意ヲ得ルコトハ出來マセヌ、依ッテ二日ト云フコトデゴザリマセヌデ明日ノ議事日程ニ載セルト云フコトニ致シタイ、何卒諸君賛成ヲ……

○男爵小松行正君 算作君ノ御説ニ賛成ヲ致シマス、

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 然ラバ算作君ノ動議ヲ決ヲ採リマス、即チ第二讀會ハ時日ヲ短縮致シテ明日開クベキト云フコトニ致シタイト云フ動議デ、之ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス、

起立者 多數

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 過半数ト認メマス、最早時刻ニ至リマシタニ依ッテ一應休憩ヲ致シマス、

午後零時三十七分休憩

午後一時二十四分開議

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 今朝木下廣次君ヨリ二十八人ノ賛成ヲ以テ徵兵令猶豫年限改正法案ヲ發議セラレマシテゴザリマス、此段ヲ御報告ニ及ビマス、次ギニ本日ノ議事日程第二、度量衡法追加案、衆議院提出第一讀會ノ續ヲ開キマス、特別委員長報告、

〔左ノ修正案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ此ニ載録ス議案中直線ヲ施セルモノ左傍ハ朱抹シタル文字右傍ハ増加シタル文字〕

〔内ノ字ハ右傍ニ朱書シタルモノナリ〕

度量衡法追加案

度量衡法第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

販賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ「取」緒紐及錘絲ニシテ金屬タルヲ要セ

「ニアラ」サルモノニ限り修覆ヲ爲スコトヲ得

度量衡法第九條第三「二」項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

「製作者、修覆者及販賣者」桿秤ノ「取」緒紐及鍾絲ニシテ金屬タルヲ要セ
「ニアラ」サルモノ、修覆ハ檢定ヲ要セスヲナシタルトキハ其檢定ヲ受ケ
ルコトヲ要セス

〔箕作麟祥君演壇ニ登ル〕

○箕作麟祥君 諸君、度量衡法追加案特別委員會ノ經過ト結果ヲ御報道致
シマス、委員會ニ於キマシテハ衆議院提出案ヲ大體可ト致シマシタ、其理由
ハ衡器ノ此取緒即チ提ゲル物、乃チ取緒ト鍾紐、皿デハナイ、鍾ノ方ニ附イ
テ居ル絲デゴザイマス、取緒ト鍾絲ハ從來明治八年太政官ノ第三百三十五號達
ノ度量衡取締條例ト云フモノガアリマス、其第十五條ト云フモノニ依リマシ
テ各地ノ權衡賣捌所ガ總テ人民ノ依頼ニ應ジテ便宜ニ修覆ヲ致シ來ツタノデ
アリマス、然ルニ此新タノ度量衡法ニ依リマスルトキハ唯今ノ取緒一本修覆
致スニモ鍾絲一本修覆致スニモ明治二十四年ノ農商務省ノ省令第十一號ノ第
二條ト云フモノニ定メテアリマスル書式ニ從ヒマシテ檢定請求書ト云フモノ
ヲ造リマシテ、夫レカラ同年同月ノ勅令第七十七號ノ第九條ト云フモノニ
定メマシタ檢定料ト云フモノヲ拂ヒマシテ、ソシテ之ヲ其衡器、秤ナラ秤ニ添
ヘマシテ地方廳ノ所在地ニ在ル所ノ檢定所即チ一府縣毎ニ唯一箇所ホカナイ
檢定所ニ差出シマシテ檢定ヲ受ケナケリヤナラスト云フ窮屈ナコトニナリマ
シタ、斯ウ云フコトニ成リ至リマシテハ甚ダ其衡器ヲ用ヒマスル人民ノ便利
ヲ大變害スルモノデアリマセウ、僅ニ其取緒一本トカ鍾絲一本トカヲ修覆致
スニモ數十日ノ時間ト幾何カノ費用ヲ要スルコトニナリマス、デ前ニ述ベマ
シタ通り其絲ノ修覆ハ從前ハ其各地ノ權衡ノ賣捌所デ致シタモノデアリマス
カラ即日修覆ガ出來ルトカ、或ハ即日出來マセヌデモ二三日間ニハ修覆ガ出
來タモノデアリマスガ、然ルニ此度ノ新度量衡法ニ依リマシテ此取緒此鍾絲
ノ修覆モ一府縣毎ニ唯一箇所ホカナイ檢定所ノ檢定ヲ受ケルコトニナリマス
ルト云フト夥シイ數ノモノガ一箇所ノ檢定ヲ受ケルコトニナツテ幅濫シテ參
リマスルカラシテ餘程ノ日數ヲ經ナケレバ其檢定モ出來スト云フコトガ從來
ノ經驗ニ照シテ明ナコトデアアル、然ルニ若シ是レ等ノ手數ガ面倒ナト云フ譯
カラシテ其檢定ヲ受ケルコトヲ厭ヒマシテ夫レヲシマセヌト云フト忽チ此度
ノ量衡法ノ第十五條ニ「檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若クハ之ヲ營業ノ目
的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス」
ト云フ規定ガアリマスルカラ、其檢定ヲ受ケルノ面倒デアアル煩ニ堪ヘスト
云フコトデ檢定ヲ受ケズニ修覆シタモノヲ用ヒマスルト忽チ其制裁タルヤ十圓
以上二百圓以下ノ罰金ヲ以テ罰セラル、ト云フコトニナリマス、抑、此秤、其
衡器ト云フモノハ人民ノタメニハ誠ニ必要缺クヘカラザルモノデアリマシテ

農商工ナゾハモウ瞬間モ手離スコトガ出來ヌ器具ト申シテモ宜イ位ナモノ
デアアル、然ルニ唯今述ベマシタ通り餘程繁雜ナ手數ト幾分カノ費用ト夫レカ
ラ夥シイ時間ト、是レ丈ケノモノヲ要シナケレバ其秤ニ附イテ居ル取緒一本
鍾絲一本モ修覆スルコトガ出來ナイ、若シ夫レニ違フタラ忽チ罰セラレルト
云フコトニナリマスルカラ全國ノ人民ガ知ラズ識ラズ餘程意外ノ懲罰ニ遭フ、
幾百千人ノ農商工ガ法律違反ノ處分ヲ受ケルト云フコトニ立至ルヤモ測リ難
イ譯デアリマスル、デ政府デ先年度度量衡法ト云フモノヲ設ケムト欲シテ本院
ニ提出ニナリマシタ、本院竝ニ衆議院モ之ニ協賛ヲ致シタノハ決シテサウ云
フ酷ナコトヲシヤウト云フ精神デナイコトハ無論分ツテ居リマス、然ル處ガ唯
今ノ現行法ノ儘デ置キマスルコト云フト斯ウ云フ酷ナコトニ立至ル、ソコデ此度
ノ衆議院ノ提出案ト云フモノハ其秤ノ桿秤……秤ノ取緒ト鍾絲デ金屬ヲ用ヒ
マセヌモノノ修覆ハ矢張り從前カラノ仕來リノ如ク各地ノ販賣所デ出來ル様
ニ致シテヤリ、別ニ檢定ヲ要スルコト云フコトガナイコトニ致シタナラバ即チ
農商工ノ營業者ガ前ニ述ベマシタ如キ幾分カノ費用ト面倒ナ手數ヲ致サズシ
テ知ラズ識ラズ懲罰ヲ受ケルト云フ様ナ憂ヲ防ギマシテサウシテ實益ヲ保護
スルコトニナルデアラウト思ヒマス、是レガ則チ委員會ニ於キマシテ大體衆
議院ノ提出案ヲ贊成致シタ譯デアリマス、抑大體ハ贊成ヲ致シマシタガ幾分
カ此文字上ニ修正ヲ加ヘマシタ、其理由ヲ一ト通り述ベマスガ先ヅ第一「販
賣ノ免許ヲ得タル者ハ桿秤ノ緒紐及鍾絲」トアリマシタ、夫レヲ委員會ニ於
テ「緒紐」ヲ取緒ト改メマシタ、其譯ハ全體緒紐ト此衆議院ノ案ノ通りニ致シ
テ置キマスレバ從來カラ用ヒ來リノ意味デアリマシテハ緒紐ト云フモノハ即
チ取緒ト夫レカラ鍾ニ附イテ居ル絲夫レカラ此秤ニ附イタ皿紐、此三ツトモ
緒紐ト云フモノデアアル、サウスルト緒紐及鍾絲ト云フ原案ノ通りデハ重語ニ
ナル、緒紐ト云ヘバ前申ス通り三ツノモノガ這入ルノニ夫レニ緒紐鍾絲ト致
シテ置キマシテハ重語ニナルカライケマセヌ、蓋シ衆議院ノ提出者ノ理由書
ト云フモノヲ見マシテモ皿紐マデノ修覆ヲ販賣ノ免許ヲ得タル者ニサセヤウ
ト云フ趣意デハナイ、唯最モ切レ易イ所ノ取緒ト此鍾絲ト此二ツガ一番切レ
易イモノデアアル、此取緒ト鍾絲ハ一番切レ易イモノデアアルノニ現行法ノ儘デ
ハ甚ダ檢定ヲ受ケル手數ガアツテ、タツタ一箇所ノ檢定所ヘ持ッテ行クト云フノ
ハ窮屈デ堪マラナイカラ、ソコデ取緒鍾絲丈ケハ販賣ノ免許ヲ受ケタ者デヤ
レルト云フコトニスレバ人民ノ都合ガ宜イト云フ主意デアアル、ケレドモ緒紐
及鍾絲ト云ツテハ文字ガ重語ニナリマスルノミナラズドウモソコノ所ガ意味
ガ貫徹致シマセヌ、夫レデアリマスルカラ委員會ニ於テハ取緒鍾絲此二ツデア
ルト云フコトヲ明白ナラシメタノミデアリマスル、今ノ皿紐ト云フモノハ容
易ニ切レヌモノデアリマスガ萬一切レマシタトキニハ從來ノ通り檢定ヲ受ケ

ナケレバ修覆ハ出來ス、此事ハ以前カラサウナッテ居ル、承ルト舊幕ノ時デモ
サウダサウデゴザイマス、夫レマデ衆議院ノ案ハ緩メルト云フ精神デハナイ、
ナイノガ夫レマデ緩メル様ニ原案デハ聞エマスルカラソコデ斯ウ改メマシ
タ、夫レカラ「金屬タルヲ要セサルモノ」トアリマシタノヲ金屬ニアラサルモ
ノト致シマシタ、是レハ格別意味モアリマセヌガ金屬タルヲ要セザルモノト
言ヒマスルト取緒鍾絲ト云フモノハ必ズ物ニ依ッテ金屬ヲ要スル是レハ金屬
ニシナケレバナラヌ是レハ金屬デナクテ宜イモノト云フ區別ガ附イテ居ル様
ニ聞エマスルガ決シテサウ云フ譯デハナイ、明治二十四年八月第十一號ノ農
商務省ノ省令ノ第十六條ニ「緒紐ニハ金屬、革又ハ強靱ナル絹絲、麻絲等ヲ用
非ルヘシ」トアリマス、夫レデアリマスルカラシテ麻絲絹絲ト云フモノヲ用ヒ
テモ宜シ革デモ宜シ又ハ金屬ヲ用ヒテモ宜イ、即チ金屬ヲ鍾絲ニ用ヒテモ宜
イト云フコトニナッテ居リマスル、所デ金屬タルヲ要セザルモノト云フト是レ
ハ金屬ヲ以テスベキイモノ是レハ金屬デナクテ宜イト云フ區別ガアル様デア
リマスガ、決シテサウ云フ譯デハアリマセヌカラ金屬デナイモノト云フコト
ガ分レバ宜イノデゴザイマスルカラ金屬ニアラザルモノト改メマシタ、夫レ
カラ度量衡法ノ「第九條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ」ト云フ所ヲ二項ノ次ニ
ト改メマシタ、是ハ第三項ノ次デモ強チ惡イイト云フデハアリマセヌガ檢定
ヲ受クルコトヲ要セズト云フコトヲ入レマスルノデアリマスカラシテ二項ノ
次ヘ入レルコトニ致シマシタ、其第一項第二項ニ檢定ヲ要スルコトガ掲ゲテ
アリマスルカラ其次ヘ入レテ即チ檢定ハ入ラヌト云フコトヲソコノ次ヘ入レ
ル方ガ法律上ノ體裁ガ其宜シキヲ得タルモノデアルト云フ主意デアアル、夫レ
カラ桿秤ノ製作者修覆者及販賣者斯ウ云フ字ヲ入レマシタノハ即チ製作ノ免
許モ受ケズ修覆ノ免許ヲ受ケテモ居ラズ販賣ノ免許モ受ケテ居ラヌ所謂素人
ガ勝手ニ修覆スルコトハ出來ナイト云フコトヲ示ステデアリマスル、衆議
院ノ提出案ノ理由書ヲ見マシテモ決シテ製作修覆販賣等ノ免許ヲ得テ居リマ
セヌ所謂素人デアアル所ノ農工商ガ己レ自ラ檢定ヲ受ケズシテ勝手ニ修覆スル
コトガ出來ル様ニシヤウト云フ意味デハナイ、約マリ衆議院ノ主意ハ販賣ノ
免許ヲ受ケタル即チ販賣所デ修覆ヲシテ呉レ、バ宜イ即チ檢定ヲ受ケズシテ
修覆シテ呉レ、バ宜イト云フノデ、決シテ素人ガ自分自ラ修覆ヲシテモ宜イ
ト云フ譯デハナイコトハ理由書デ能ク分ッテ居リマス、然ル處ガ原案ノ儘デ
ハ「桿秤ノ緒紐及鍾絲ニシテ金屬タルヲ要セサルモノノ修覆ハ檢定ヲ要セス」
トアリマスルカラ此ノ八條ノ二項ノ次ニ加ヘマシタ所ヘ持ッテ行ッテ必ズ修
覆ヲシテ貫ハナケレバナラヌト云フコトハ分リマセヌ、ドウシテモ原案ノ儘
デゴザリマスルト農工商デアアル所ノ素人ガ己レ自ラ檢定ヲ要セズシテ修覆ス
ルコトガ出來ルト云フコトニ外見エヌ、精神ハ決シテサウ云フ譯デハアリマ

セヌガ文字ガサウ見エマセヌカラ、ソコデ檢定ヲ受ケズシテ修覆ガ出來ルノ
ハ何人デアアルカト言ヘバ即チ素人デハナイ製作ノ免許ヲ受ケタ者修覆ノ免許
ヲ受ケタ者又ハ販賣ノ免許ヲ受ケタル者、此三ツノ者ナラバ檢定ヲ受ケズシ
テ修覆スルコトガ出來ルト云フ衆議院ノ主意ノ通りヲ其精神ヲ明白ニ書顯シ
マシタ、詰マリ夫レデ製作者修覆者及販賣者ト云フ文字ヲ入レマシタ、夫レ
カラ緒紐ト云フ字ヲ取緒ト直シマシタノハ前同様、又金屬タルヲ要セザルモ
ノト云フノヲ金屬ニアラザルモノトシマシタノモ前同様、デ「檢定ヲ要セス」
ト云フノヲ修覆ヲナシタルトキハ其檢定ヲ受クルコトヲ要セズト致シマシ
タノハ即チ唯今述べマシタ通り素人デハナイ製作者修覆者及販賣者ガ其桿秤
ノ取緒ト鍾絲鍾紐ノ金屬デナイモノヲ修覆致シタトキニ此者等ガ修覆ヲ致シ
タラ檢定ヲ受クルヲ要セヌ、即チ修覆者販賣者ノ免許ヲ受ケタ者ハハタデ檢
定ヲシテ貫ハンデモ自分デ檢定ヲスル道具モアリ夫レ丈ケノ資格ノアル者ガ
致スノデアリマスカラ、人民ガソコヘ行ッテ依頼ヲスレバ檢定ヲ受ケンデモ宜
イト云フ詰マリ是レマデ仕來ッタ通りニスルト云フコトニ過ギナイノデアリ
マス、斯ノ如ク致シマセヌト云フト隨分甚ダ困ルコトガアル、所デ衆議院ノ案
ノ儘デ置キマスドドウモサウハ見エヌ様デアリマシテ、以前モ度量衡取締條
例第十五條ニ權衡製作所ト賣捌所ノ外他人自儘ニ緒紐附替候儀相成ラズ若シ
犯ス者アルトキハ其品物ヲ取揚ゲ律ニ照シテ處斷スルト云フコトガアッテ、以
前デモ製作者、販賣者ハ取緒紐ノ附替ガ出來マスガ他人自儘ニスルトハ相
成ラヌ、若シ之ヲ致シタナラバ其品物ヲ取揚ゲ律ニ照シテ處分スルト云フ明
文ガアッタ位デ、ドウモ衆議院ノ案ノ儘デハ素人デモ勝手ニ出來ルト云フ恐
ガアリマスルカラ斯ノ如ク修正ヲ加ヘマシタ、之ヲ要スルニ此度ノ委員會デ
致シタ修正ハ其精神ハ衆議院ノ案ト少シモ違ヒマセヌ、唯衆議院ノ案ノ儘デ
ハ文字ガ不完全デアッテ意味ガ貫徹致シマセヌカラ其意味ヲ貫徹セシムルタ
メニ修正ヲ致シタコトデアリマス、故ニ此人民ノ便利ヲ謀ルタメニ衆議院
ノ提出案ガアッタ、其提出案ニ委員會モ賛成ヲ致シテ唯其精神ヲ貫カシムルタ
メニ文字ヲ改メマシタノデアリマスルカラ、委員會ガ故ラニ改メマシタノデ
モ何デモアリマセヌ、已ムヲ得ズ其意味ヲ明ナラシムルタメニ改メタノデア
リマスカラ、ドウゾ滿場諸君ノ御同意ヲ得タク希望致シマスル、御質問ガアリ
マスレバ本員ノ及ブ丈ケ御答ヘテ致シマスルガ、併シ度量衡ノコトハ甚ダ本
員ハ最モ不慣ナルコトデアリマシテ、ドウモ御問ノ如何ニ依ッテハ御答ガ出
來兼ネマスルカ知レマセヌガ、夫レハ又他ノ委員中ニ十分此事ニ審ナル諸君
モアリマスルカラ若シ本員ガ御答ガ出來マセヌケレバ其方カラ御答ヘノアル
コトト存ジマス、

〔菊池大麓君演壇ニ登ル〕

○菊池大麓君 本案ニ付テ一言申述ベテ置キタイコトガアリマスルカラ暫時諸君ノ御聽ヲ煩シマス、其前ニ此修正ノ中ノ文字……此第九條ノ二項ノ次ニ入ル文ノ修正ノ中ニ「其檢定」ト云フ「其」ト云フ下ニ片假名ノ「ノ」ノ字ガ這入ルノガ間違ッテ居ルノデアリマスカラ御斷リヲ申シテ置キマス、此案ノ出マシタトキニ私ハ衆議院ノ理由書ヲ見マシタ所ガ其理由書ト云フモノニハ在來ノ衡器ハ斯ク斯クデアル、之ヲ要スルニ舊器ハ斯ク斯クデアルト云フ右イ即チ是レカラ七年間命ノアル所ノ器物ノコトニ付テ理由ガ述ベテアリマシテ、少シモ改正ノ法律ニ從ッテ出ル所ノモノニ付テハ理由ガ述ベテアリマセスニ依ッテ頗ル其理由ヲ知ルニ窮シテ居リマシタガ、議場ニ出マスル前ニ其中ノ舊器ト云フモノガ取消ニナッテ舊器丈ケデハナイ一體ノ器デアルト云フコトニナリマシタガ、併ナガラ矢張り提出者ノ説明ヲ見マシテモ新ナコトヲ申シタノデナク唯舊イ……在來ノモノヲ申シテアル丈ケノコトデアリマシテ理由ニ至ッテハ稍、苦シムノデアリマス、夫レ故ニ其他ノ事ニ就テモ此議場ニ出マシタトキニ政府委員ノ説明モ聞キ又委員會デモ色々審査シマシタ所ガ大體ノ主意ハドウシテモ是レハ探ラネバナラスト云フコトデ主意ハサウ云フコトニナリマシタガ、併ナガラ此案ヲ調べテ見マスルト實ニ不都合千萬ナ案デアル、此案ノ通りニ……衆議院通りニ若シ通ッタナラバ何人モ自分ノ勝手次第ニ緒紐ノ附替ヲシテモドウデモ勝手次第デアルト云フコトニナル、サウ云フ案ニ對シテ政府委員ガ此案ガ通ッテモ差支ナイト云フタノハドウ云フ譯デアリマス、取締上頗ル困難デアリマスガ政府委員ハサウ云フコトヲ思ハレノデアリマス、ドウデアリマスカ甚ダ……、若シサウデナイサウ云フ主意デナイナラバ此案ノ取締ニ付テ甚ダ不親切デアラウト考ヘマス、若シ又緒紐ノ附替モ勝手次第デアルト云フナラバ政府ハ度量衡法ヲ拵ヘタ最初ノ精神ハ棄テテ仕舞ッテ度量衡ハドウデモ宜イカノ様ニ見エマス、斯ノ如ク人民ノ利害經濟上ニ頗ル大ナル關係ノアリマスル所ノ案ニ對シテ斯様ナ不調デアッタナラバ甚ダ歎ハシイコト考ヘマス、且ツ又主旨ニ付テ論ジマスルニ舊器ノコトニ付テ當局者モ述ベテ居リ又提出者モ舊器ノコトニ付テ調ベデ居リマスガ舊器ノコトナラ度量衡法ノ附則ニ持ッテ行ッテ宜シイ、則チ舊器ノコトハ附則ノ第二十一條ニアリマスルカラ論ズルニ及バヌコトデアリマス、新器則チ新シイ器物ノ方ハドウ云フコトデアアルカト云フニ成程此檢定ガ嚴シクナルナラバ多少ノ不便ハアリマセウ、貴族院ノ委員會ニモ多少此論ハナイデハアリマセウガ併ナガラ是レカラ出ス所ノ器物ト云フモノハ今マデノ様ナモノデハナイ、改良シタコトモナクサウ云フ風ニ切レルモノデモナカラウ、又檢定モドコドコト人民ノ便利ヲ圖ッテ十分之ヲ行フコトガ出來ルト云フモノデアリマス、併ナガラ現今ノ有様ヲ見マスルト隨分サウハ行カスト云

フ有様デアリマス、全體度量衡法ニハ二種ノ性質ガアッテ則チ一條ヨリ六條マデハ度量衡其物ノ基礎ヲ極メルノガ主意デアリマス、夫レデ六條カラ以下ハ度量衡器即チ秤、物サシ、又ハ樹ノ改良ヲ圖リ其確實ナルコトヲ得ルタメノモノデアリマス、其手段ハ何デアアルカト申スト檢定ヲ確實ニシタイト云フコトデアリマス、然ルニ檢定費用ハ非常ニ削減ヲサレタノデアリマス、政府委員ハ其時ニ於テ十分ニ檢定ガ出來ルト言ハレマシタガ私ハ出來ナイト考ヘマス、十分ニ出來ナイト考ヘマス、若シ十分ニ出來ルナラバ……一萬三千圓削減サレテモ十分ニ出來ルナラバ餘程豫算ニ懸直ガアッタト思ハナケレバナラス、私ハ懸直ガアッタト見レバ……寧ロ檢定ノ方ガ不十分ニナルデアラウト考ヘテ居リマス、デモウ既ニ費用ノ方カラシテ檢定モ多少不十分ニナッテ居リマス、又此法律ノ追加案ハ檢定ヲ幾分力不十分ニシヤウト云フ案デアリマシテ衡器ヲ改良シテ確實ナル衡器ヲ得ヤウト云フ側カラ考ヘマス、隨分歎ズベキコトデアリマス……

○議長(侯爵蜂須賀茂韶君) 御發言中デハアリマスガ暫ク……

(菊池大麓君演壇ヲ下ル)

唯今内閣總理大臣臨時代理内務大臣伯爵井上馨君ヨリ 詔勅ヲ傳達ニナリマシタニ依ッテ之ヲ御報告ニ及ビマス、即チ朗讀ヲ致シマス、

(議員一同起立ス)

朕帝國憲法第七條ニ依リ一月二十三日ヨリ二月六日迄十五日間帝國議會ノ停會ヲ命ス

御名 御璽

明治二十六年一月二十三日

各大臣連署

デゴザイマス、即チ散會、
午後一時五十二分散會